



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)札幌円山整形外科病院 新築工事	階数	地上6階
建設地	中央区北7条西27丁目2-1他14筆	構造	RC造
用途地域	近隣商業、準防火地域	平均居住人員	80 人
建物用途	病院	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
竣工年	2024年8月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	4,378 m ²	評価の実施日	2022年4月8日
建築面積	2,384 m ²	作成者	
延床面積	8,934 m ²	確認日	2022年4月8日
		確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★☆☆☆ **B-**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 94%

③上記②以外のオンサイト手法 94%

④上記+オフサイト手法 94%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 一次エネルギー消費量の評価

建物全体の[BEE][BEIm]= **0.93**

2-5 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.1

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.8

3 設計上の配慮事項		
総合 利用者に配慮し、F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	A 省エネルギー BPI _m =0.72	
B 省資源等 断熱材はODP,GWP数値が低い材料を使用している。	C 緑化 敷地内は植栽し良好な景観を形成している。	D 雪処理 特になし。

4 ほかの認証・評価制度の利用			
(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	-	BELS認証	-
上記以外の認証・評価制度の利用		LEED認証	-

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.4)		■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0						
(仮称)札幌円山整形外科病院 新築工事		欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)						
スコアシート		実施設計段階						
配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数			
Q 建築物の環境品質								2.5
Q1 室内環境					0.40		-	2.7
1 音環境				2.9	0.15	2.8	1.00	2.9
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音				3.8	0.40	3.6	0.40	
1 開口部遮音性能			T-2以上	5.0	0.40	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能				3.0	0.60	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音				1.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境				2.3	0.35	2.3	1.00	2.3
2.1 室温制御				2.5	0.50	2.1	0.50	
1 室温				3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能	省エネ			1.0	0.25	1.0	0.43	
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	2.0	0.20	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境				2.0	0.25	2.0	1.00	2.0
3.1 昼光利用				1.8	0.30	1.8	0.30	
1 昼光率				1.0	0.60	1.0	0.60	
2 方位別開口				-	-	-	-	
3 昼光利用設備	省エネ			3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策				1.0	0.30	1.0	0.30	
1 昼光制御	省エネ			1.0	1.00	1.0	1.00	
2 映り込み対策				-	-	-	-	
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境				3.9	0.25	3.6	1.00	3.8
4.1 発生源対策				4.0	0.50	4.0	0.63	
1 化学汚染物質			F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気				3.0	0.30	3.0	0.38	
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能				-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-	
2 喫煙の制御			全館禁煙となっている	5.0	1.00	-	-	

Q2 サービス性能			—	0.30	-	-	2.7
1 機能性			2.4	0.40	4.0	1.00	2.6
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40	5.0	0.60	
1	広さ・収納性	個室10㎡/床以上、かつ多床室8㎡/床以上	-	-	5.0	1.00	
2	高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
3	バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性			1.0	0.30	2.5	0.40	
1	広さ感・景観 (天井高)	宿泊部の天井高2.5m以上	-	-	4.0	0.50	
2	リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3	内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理			3.0	0.30	-	-	
1	維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2	維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性			3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			3.0	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源 更新必要間隔20年以上	5.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性			3.0	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法	耐震クラスA	4.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			2.7	0.30	2.9	1.00	2.7
3.1 空間のゆとり			2.2	0.30	2.8	0.50	
1 階高のゆとり		宿泊部の階高3.75m	3.0	0.60	4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			1.0	0.40	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出	緑化		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	緑化		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雪処理		2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	2.9
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	BPI _m =0.72	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用	省エネ		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	省エネ	[BEI][BEI _m] = 0.93 -	2.3	0.50	-	-	2.3
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング	省エネ		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	省エネ		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水型機器の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減	省資源		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	床:ビニル床シート	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源		3.0	0.20	-	-	

3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.5	0.70	-	-	
1	消火剤	省資源		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	省資源	ODP=0.01未満かつ、GWPが低い発泡剤(GWP(100年値)が50未満)を用いた断熱材等を使用している。	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒	省資源		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮		省資源	ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物(参照値)と同等	3.2	0.33	-	-	3.2
2 地域環境への配慮				2.4	0.33	-	-	2.4
2.1 大気汚染防止		省資源		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		省資源 熱化 蓄熱処理		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	省資源		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	省資源 蓄処理		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1	騒音			3.0	0.33	-	-	
2	振動			3.0	0.33	-	-	
3	悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制			-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

1 建物概要		BEE	0.7	BEEランク	B ⁻
建物名称	(仮称)札幌円山整形外科病院 新築工事				
建物用途	病院.				
延床面積	8,934.5 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★☆	
	省資源等	★★★☆☆	
	緑化	★★★☆☆	
	雪処理	★☆☆☆☆	
		<p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>	

3. 重点項目のCASBEEスコア					
A 省エネルギー (最高点 23.1 最低点 6.6)				合計	13.2点 /23.1点
Q1 温熱環境	スコア	0.3 /1.0	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	4.0 /4.0
Q1 光・視環境	スコア	0.7 /2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2 /2.0
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	4.6 /10.0
			LR1 効率的運用	スコア	2.4 /4.0
B 省資源等 (最高点 23.7 最低点 7.7)				合計	13.3点 /23.7点
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.6 /1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	5.0 /9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.9 /2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.5 /1.9
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	3.2 /5.0
			LR3 地域環境への配慮	スコア	2.1 /4.4
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)				合計	6.4点 /15.3点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	0.9 /4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0 /2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	3.6 /6.0			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.9 /2.3			
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)				合計	0.0点 /3.0点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	0.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■重点項目の**最高点**は、各評価項目で**レベル5**で評価された場合の点数
 ■重点項目の**最低点**は、各評価項目で**レベル1**で評価された場合の点数